

知床五湖地区における取組の進捗状況について

1. 知床五湖利用調整地区制度の運用状況について〔運用期間：4月20日～11月8日〕

- ・ 2022年度の地上遊歩道立入認定者数は46,333名（前年比98%）
- ・ コロナ渦前と比較すると7割程度の入込状況。
- ・ 利用者数の減少に関連し、運営費や実施体制に課題が生じている。

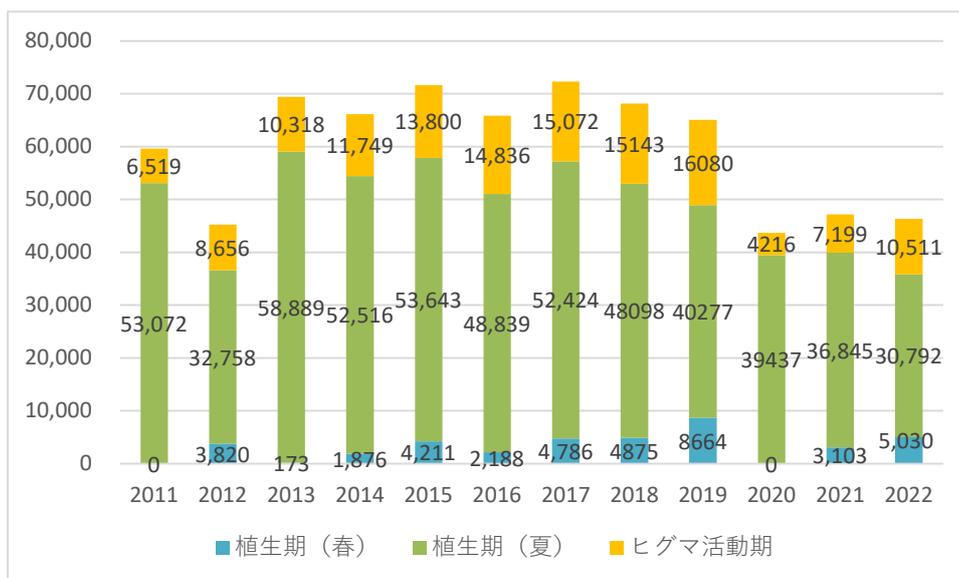


図1. 制度運用期間の立入認定者数の推移(人)

2. 知床五湖の利用のあり方協議会、登録引率者審査部会の開催状況

- 第37回知床五湖登録引率者審査部会：2022年12月2日、2023年1月24日
 - ① 既存登録者28名、新規養成者5名が試験合格。来年度は33名が引率資格を有する予定。
 - ② 既存引率者の研修カリキュラムや試験審査方法について変更なし。
 - ③ 2023年度も新規引率者の募集を行い、養成研修を実施する方針で決定。
- 第44回知床五湖の利用のあり方協議会
 - ・ 2月下旬～3月上旬（予定）に実施し、各課題について議論予定。

3. 知床五湖（一湖）水生植物繁茂状況について

- ・ 一湖湖面に広がるスイレン（外来種）の景観への影響について懸念の声があり、今後調査や対応について検討予定。

<2010年（H22年）～2022年（R4年）の湖面状況変遷>

一湖湖面の変化について、湖畔展望台（高架木道の最終展望地）からの眺望記録写真で2010年（H22年）～2022年（R4年）の変遷を下記にまとめた。これをみると、2015年（H27年）頃から地上遊歩道側湖面の植被率が上がってきている様子が窺える。※環境省巡視記録写真より作成。

<7月または8月の写真>	<9月または10月の写真>
	
2010年（H22年）8月	—
	
2012年（H24年）8月	10月
	
2013年（H25年）8月	9月



2014年（H26年）7月



10月



2015年（H27年）8月



10月



2016年（H28年）8月



10月



2017年（H29年）8月	—
	
2018年（H30年）8月	10月
	
2019年（H31年）7月	9月
	
2020年（R2年）8月	9月
	
2021年（R3年）8月	10月

	
<p>2022年（R4年）8月</p>	

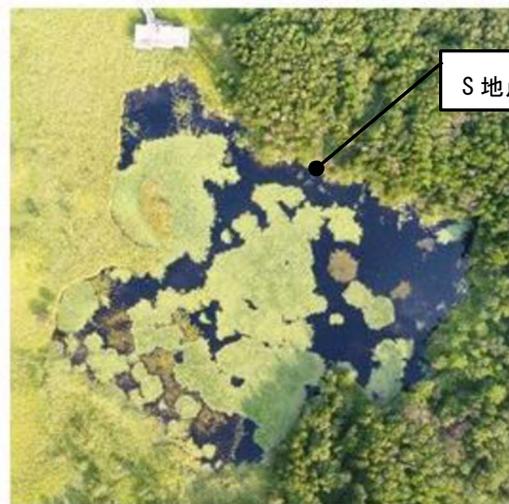
また、2021年度に実施したドローン撮影と画像編集ソフトを用いて画像合成した過去の湖面状況写真との比較からは、特に、地上遊歩道内にある一湖展望地付近や地上遊歩道展望台から見えない奥側（南側）の水生植物の植被率が高まっている様子が確認できる。

※知床五湖モニタリング試行調査として知床財団が実施。

2018年9月6日



2021年8月22日



S地点（一湖展望地）

<今後のスケジュール（想定）>

3月 知床五湖のあり方協議会にて協議の上、方針決定。

5月 除去範囲検討・専門家ヒアリング

※関係者協議や専門家の意見を聞きつつ、臨機応変に変更する。